

アブダビにおける紛争解決手続き-その1 “訴訟だけが唯一の方法ではない”

2011年9月

独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)

目次

法廷外紛争解決手続き（Alternative Dispute Resolutions）の紹介	1
ADR とは？	1
交渉（Negotiation）	2
調停（Mediation）	2
専門家による決定および早期中立評価手続き（Expert Determination and Early Neutral Evaluation）	3
紛争解決委員会（Dispute Resolution Boards）	4
裁定（Adjudication）	4
ADR を用いる意味は？	5
結論	5

報告書の利用についての注意・免責事項

本報告書は、日本貿易振興機構（ジェトロ）ドバイ事務所が現地法律コンサルティング事務所Clyde & Co LLPに作成委託し、2011年9月1日現在入手している情報に基づくものであり、その後の法律改正等によって変わる場合があります。また、掲載した情報・コメントは筆者およびジェトロの判断によるものですが、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありませんことを予めお断りします。

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かにかかわらず、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

本報告書にかかる問い合わせ先：
独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
進出企業支援・知的財産部 進出企業支援課

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32
Tel:03-3582-5017

JETRO

本報告書作成委託先：
Clyde & Co LLP Middle East Regional Office
PO Box 7001, Rolex Tower
Sheikh Zayed Road, Dubai,
United Arab Emirates
Tel: +971 4 384 4000
Fax: +971 4 384 4004
Email: mero@clydeco.ae

كلايد و كو
CLYDE & CO

アブダビにおける紛争解決手続き - その1 “訴訟だけが唯一の方法ではない”

法廷外紛争解決手続き（Alternative Dispute Resolutions）の紹介

時に、訴訟は時間と費用がかかる上、契約者間の争いが満足に解決されないとされるが、確かにそのとおりである場合が多く見受けられる。しかし、訴訟だけが、唯一の紛争処理方法であるわけではない。

契約上の義務を遂行する中で、二者間で起こりうる問題をより迅速に、経済的に、しかも、より納得できる方法で解決する多くの代替的な紛争解決手続き（法廷外紛争解決＝ADR）がある。

本記事は、アブダビでの紛争処理に関する3シリーズの最初の記事であるが、以下のことについて説明することとする：

- ・ADRとは？
- ・よく使われるADRの手続きは？
- ・訴訟と比較したADRの利点は？

ADRとは？

ADRとは、要するに、法廷裁判の関与しない紛争処理の方法や仕組みを意味し、その範疇は、関与者間での非公式の交渉から、仲裁や裁定などのより公式な解決方法まで、広範囲にわたる。本記事では、以下のADRについて考察することとする：

- ・交渉
- ・調停
- ・早期中立評価手続きおよび専門家による決定
- ・紛争解決委員会
- ・裁定

紛争をADRで解決するためには、契約書にその旨を定める規定が必要なわけではない。契約当事者双方が合意する限り、紛争がどのような段階にあらうとも、ADRを採用することができる。紛争が起こったばかりの時期であらうと、法手続きが既に始まっている段階であらうと、問題ない。実際、裁判がまさに始まろうとする直前に、紛争解決にADRが採用されることは、珍しいことではない。しかし、契約者が、ADRを仲裁あるいは訴訟への前提とすることによって、その旨を明確にする特定の条項を契約書に含めなければならない。

交渉 (Negotiation)

意外に思うかもしれないが、交渉は、紛争解決方法として見落とされがちである。契約に絡む紛争が生じた場合、たいてい、被害者側は、まず、催告書の送付を弁護士に指示し、迅速に支払いが行なわれない場合、訴訟手続きが開始される。このアプローチは解決策として有効ではない場合が多く、相手側を守勢に立たせるばかりになりがちである。

一方、被害者側の幹部が、相手方の幹部に連絡を取り、交渉により解決に至るか否か確認するというアプローチは、弁護士を介する必要なく、たいてい、より好意的な結果が導かれる。多くの契約では、役員レベルの関係者間での交渉を、仲裁あるいは裁判へ進む前の条件とする紛争処理条項が設けられている。契約当事者は、いつでも紛争の解決へ向けた交渉を自由に行なうことができる。

中東では、マヤリス (majalis) で紛争を解決する歴史があり、役員による交渉は、ADRの一策として、適している。しかしながら、これは、恐らく、あまり用いられる方法ではないであろう。

交渉の利点は、当事者双方が責任を持って交渉に臨めば、実際に交渉にかかわる関係者の時間以外、経費を抑えることができる点である。交渉により解決策が合意されれば、弁護士費用も節約できる。また交渉がうまくいけば、当事者間の契約上の関係も保つことができ、将来、再び契約を締結することも可能になるであろう。しかし、交渉を成功させるには、当事者双方が、誠意的に、適切と思われる場合は譲歩する構えでなければならない。また当事者双方は、まず実際に何が紛争の原因であるのかを明確にしなければならない。さもないと、当事者間で誤解が生じ、結局、時間の無駄となるからである。

調停 (Mediation)

調停は、体系化された交渉であり、特に、英連邦法域、西ヨーロッパ、アメリカ合衆国でよく用いられる。CEDR、LCIAやICCなど、調停サービスを提供する多くの国際機関がある。

調停は、当事者間の合意の下、中立の第三者である調停人を立て、交渉により解決を導く手続きである。調停人の役割は、当事者に法的効力のある決定を下すのではなく、当事者それぞれの主張を明確にし、紛争の原因である問題を明らかにし、交渉による解決に至るまでの障害を乗り越えるためのアシストを提供することにある。これは、なかなか容易なことではない。調停に頼る当事者は、たいてい、事実および／あるいは法に関するそれぞれの主張が、大きくかけ離れている場合が多く、特定の問題に関して、凝り固まった意見を持って

いることもあり、解決が非常に難しくなる。熟練の調停人は、かなりのトレーニングと、これら困難を回避するための豊富な経験を重ねており、当事者間の溝を埋め、解決へと導く手腕を持っている。

調停の利点は、比較的、短期間（大規模で複雑なケースを除き、たいていの紛争は、1-2日で解決する）、低費用で完了することである。調停には、通常、当事者を代表する弁護士が出席するが、必ずしもそうでないといけないわけではない。弁護士が関与する場合でも、通常、法的書類などの提出が必要とされることもなく、証言のために証人が呼ばれることもないため、法的費用の負担は、比較的軽くなる。調停におけるもう一つの重要な利点は、統計的に、非常に成功率の高いADRであるという点である。熟練の調停人が扱うケースの90%が、調停の場で、あるいは調停後すぐに解決に至っている。

交渉と同じく、調停を成功に導くためには、当事者双方が、誠意を持って交渉し、場合によっては、譲歩する構えを持つことが肝要である。当事者双方、あるいは一方が、自らの主張に固執し、考えを変えることを拒否したならば、調停は成功しない。調停は、当事者自らの交渉による解決に導くことをアシストするものであり、それが成功した場合には、当事者間の関係を保つことにも繋がる。訴訟や仲裁では、このような結果は、あまり期待でない。

専門家による決定および早期中立評価手続き (Expert Determination and Early Neutral Evaluation)

専門家による決定は、当事者が合意の下に指名した専門家が、公式な審議なしで、書面により、紛争中の問題について決定を下す解決方法である。

専門家による決定は、たいてい、建設契約や、造船契約、エンジニアリング技術提供の契約など、専門的要素の関与する契約の紛争解決に用いられる。通常、当事者は、合意の上で、建設契約ならば、公認測量士、造船契約ならば、ロイズ測量技師などの専門家を指名する。

専門家による判断を拘束力のあるものとするに当事者間で合意できるものの、当事者一方が、専門家の結論に異議を唱える場合、仲裁あるいは訴訟手続きにより解決するという流れが、慣習とされている。専門家の結論が拘束力のないものであったとしても、仲裁や訴訟において、紛争問題にどのような決定が下されるのかを予測するために有効な材料となり、当事者は、裁判や仲裁に費用を費やす前に、訴訟リスクを評価することが可能となる。

早期中立評価手続きは、専門家による決定の手続きにとっても似たものであり、経験豊富な弁護士あるいは専門家に紛争の判断を仰ぎ、その問題が仲裁や裁判

で審議された場合、どのような決定が下されるのかを予測するという手続きである。要するに、早期中立評価は、拘束力のない、非公式の決定であり、他のADRほど、普及してはいないが、紛争解決を妨げる原因が、特定の法規則の解釈における意見の対立である場合などに有効である。そのような場合、その分野の法律を専門とする上級弁護士に、係争中の問題について公平な意見を仰ぐことにより、当事者は、それぞれの主張の説得力と、法廷で審理された場合、自らが負うリスクについて適切な評価を下すための有効な判断材料を得ることができる。

紛争解決委員会 (Dispute Resolution Boards)

紛争解決委員会は、契約期間に発生する紛争に決定を下すために任命された中立的な専門家、専門家陣で構成される。

紛争解決委員会は、大規模な建設事業に関し、アメリカ合衆国で、よく用いられるが、世界的にも普及しつつある。紛争解決委員会は、通常、契約期間中、法的あるいは実務的な紛争が発生した場合、公平な意見を提供することができる1人から3人の専門家で構成される。契約期間中に紛争が生じた場合、紛争解決委員会は、審議会を開き、当事者はそれぞれの主張を述べ、委員会からの質問に答える。建設契約の場合、紛争解決委員会のメンバーは、建設現場に出向き、工事の状況や構造について質問する。

通常、紛争解決委員会は、雇用者の任命による1人、請負業者の任命による1人、それら2人のメンバーが指名する委員会長の合計3人で構成される。

たいてい、紛争解決委員会の決定は、当事者一方が、仲裁あるいは訴訟手続きに進む権利を行使するまで、暫定的に、当事者に対し拘束力のある決定とみなされる。この方法は、特に、工事契約などにおいて、支払いに関する紛争により、工事が完成前に中断される恐れがある場合に有効に働く。

裁定 (Adjudication)

裁定とは、独立審判者が、仲裁あるいは訴訟手続きによる最終的な決定が下されるまで、暫定的に拘束力のある決定を下すという紛争解決方法である。国によっては、裁定を法的措置とみなす国もあるが、契約当事者は、独自の手続きを契約上合意することができる。

通常、裁定では、法的書類の提出、証人による証言の提出、口頭審議、証人喚問、反対尋問が必要となる。

この点において、裁定は、他のADRよりも、公式な手続きであり、“ミニ裁判”

と呼べるものである。しかし、裁定の主な特徴は、これら手続きを踏むための期間が、ある程度厳しく制限されている点にある。たいていの裁定は、迅速な手続きを提供することに重点が置かれ、契約の執行を遅れさせたり、中断させたりすることのないよう、決められた期間内に審判者が裁定を下すことが求められる。

係争解決委員会と同様、裁定は、当事者一方が、仲裁あるいは訴訟手続きに進む権利を行使するまで、暫定的に、当事者に対し拘束力のある決定とみなされる。

ADR を用いる意味は？

契約を結ぶ際、係争解決条項に、何らかのADRも盛り込むことを検討すべき理由は多々考えられる。上述のとおり、ADRの根本的な利点の一つに、仲裁や法廷手続きよりも、大幅に低費用で紛争を解決することができるという点がある。概して、ADRは、通常、仲裁や訴訟よりも、短期間で終了する。上述で説明したすべてのADRの手続きにおいて重要とされることは、紛争をできるだけ早く、効率的に解決することである。

ADRにおけるもう一つの利点は、手続きをコントロールするのは、当事者であるという点である。当事者は、用いたいADRの時間枠を、裁判官の命令ではなく、自ら設定することができるのである。

また、ADRは、当事者間の契約関係を保つためにも役立つ。紛争が契約期間中に生じた場合、あるいは、当事者間で将来取引が行われる可能性が高い場合、仲裁や訴訟手続きは、悪影響を及ぼす危険性がある。仲裁や訴訟は、極端に言えば、ゼロサム・ゲームである。裁判所あるいは仲裁法廷が決定を下す場合、勝者と敗者が生まれ、少なくとも当事者の一方は（双方である場合も多いが）、不満を抱える結果となる。一方、ADRは、当事者双方が納得できる条件で、紛争を解決する機会を与えるものであり、長期にわたり、多額な費用がかかり、最終的に当事者間の関係が壊れる結果に至ることを回避するために有効な解決方法である。

結論

ADRは、保険、建設、造船など、特定の業界を除き、中東ではあまり普及していない。紛争が生じると、ほとんどの場合、当事者は、仲裁や訴訟で解決しようとする。しかし、このように経済が不安定な時期、契約当事者は、仲裁や訴訟をできるだけ避けたいものである。ADRは、膨大な時間と費用のかかる手続きに陥ることなく、早急に効率的に紛争を解決する方法を提供する。

従って、契約を結ぶ際には、上記のADRの幾つかの方法を係争解決条項に含むことを強くお勧めする。

(報告書作成執筆者連絡先 : Richard Bell, Legal Director
Abu Dhabi, UAE
mero@clydeco.ae)